

## 4周年を迎えた福岡俘虜収容所第2分所犠牲者追悼平和祈念集会（長崎市香焼町）

日時：2019年9月14日（土）10時半～11時半

主催：福岡俘虜収容所第2分所犠牲者追悼記念碑維持管理委員会

9月というのにまだ真夏の日差しが照りつける14日（土）、長崎市立香焼中学校裏に設置された福岡俘虜収容所第2分所犠牲者追悼記念碑、B29記念碑の前で、4周年目の平和祈念集会が行われました。

この記念碑が建立されたのは2015年9月12日、第2分所の捕虜たちが解放された日からちょうど70年目にあたる日でした。建立委員会の朝長万左男会長、井原東洋一副会長の強力なリーダーシップの下、POW研究会をはじめ多くの人々の願いと努力が実って実現した碑でした。



挨拶する朝長万左男会長



故・井原東洋一さんの遺影も参加

それから4年、その存在は国内外に知れ渡り、訪問客が絶えず、オランダの王室まで訪れるほどになりました。敷地内にはつつじやチューリップなど季節の花々が植えこまれ、碑のそばのQRコードにスマホをかざせば、この収容所の歴史を紹介する映像（「日蘭イ対話の会」制作）を見ることができます。さらにこの日、訪問客が一休みできるよう石造りのベンチ2脚が新たに設置されていました（井原さん一族と「日蘭イ対話の会」寄贈）。こうして記念碑は日々成長を続けています。

その最大の貢献者、井原東洋一さんが7月30日に急逝されたことは大きなショックでした。しかしご子息たちが父上の遺志を継いで、懸命に準備を進め、この日を迎えることができました。

10時から長崎のキリスト教会の方々による礼拝、続いて10時半からご子息・井原俊也さんの司会進行による平和祈念集会が行われました。とても暑い日でしたが、長崎市などの行政関係者、国会議員、オランダ大使館書記官、オーストラリア大使館武官、市民の方々など50人ほどが参加し、朝長会長からはこの記念碑が持つ大切な意義と、今後も末永く守っていくとの力強いご挨拶がありました。井原さんを喪った悲しみは大きいですが、残された人々の結束によって、この4周年祈念集会が無事に立派に執り行われたことに感動し、心強く思いました。



行政関係者、国会議員、大使館員、市民など約50名が参加

「日蘭イ対話の会」によると、来年の5周年記念イベントについて、オランダその他の国々の関係者60人以上から問い合わせがあり、おそらくその3分の2は参加するだろうとのこと。2015年の除幕式の海外からの参加者は30人ほどでしたが、来年はそれ以上の規模となり、受け入れ準備も大変なことと思います。POW研究会も最大限サポートしていきたいと思えます。

（報告：笹本妙子／写真提供：林田慎一郎氏）